

2022年3月臨時市議会報告

発行：日本共産党和歌山市議員団
TEL 073-435-1113 fax 073-421-4181
日本共産党市議会だより 2022年4月

IR誘致計画同意される!!

県知事から、立地市として「和歌山県特定複合観光施設（IR）区域整備計画に係る同意について」の依頼を受け、3月28日から30日までの間、臨時市議会が開催されました。日本共産党市議会議員団は同意することに反対しましたが、賛成多数で可決され、和歌山市としてIR計画に同意することとなりました。

敬篤キョウの市長表明

臨時市議会冒頭で市長は「世界水準の施設ができることで雇用創出や経済効果も期待できる。市の新たな成長産業になり、IRは未来のために絶対に逃してはならないチャンス」「市長として全責任をもって同意するものである」と強調し、市議会にも同意することを求めました。

中村議員が質疑を行い市長の姿勢を厳しく追及

中村「県が説明会・公聴会・パブリックコメントのまとめを公表したのが、わずか3日前の25日。市民への説



中村あさと議員

明が不十分なままでは、なんのための説明会・パブリックコメントなのか」

市長「区域整備計画について、市民の意見について十分に検討し反映されたものと考え、立地市として同意することと判断し議案を提出しました」

IR誘致に関する特別委員会採決

IR区域整備計画の同意についての議案を付託されたIR誘致に関する特別委

員会でも、ひめだ高宏議員・と森下さち子議員が審査しました。



ひめだ高宏議員

「収益の大きな部分をカジノ収益に依存することになっており、その大部分は日本人のふところから得ようとするもの」「いくら納付金が入るとしてもそれがキャンブルであるカジノで得たものである限り、市の財源として認めるわけにはいきません」



森下さち子議員

「住民投票条例の求めに必要ないとの意見を付けた上で、市民への説明を丁寧

にすると言いながら、それに答えたとは言いがたい」

「パブコメの内容、説明会の質疑応答は決して十分と言えるものではなかった。市長は市民の疑問に答える義務があり、かつ県に対してこのような拙速なすすめ方については疑義を申し入れるのが務めです」と、両名が反対討論を行いました。特別委員会の採決は、委員長を除く10人中、賛成6人、反対4人で可決されました。

本会議で

10人が反対!!

3月30日（水）、本会議最終日。森下さち子議員が日本共産党市議会議員団を代表して反対討論を行いました。

「IRは刑法で禁じられたカジノ賭博行為を含むものという点で、根強い反対の声は減るどころかむしろ広がっている」「入場料や納付金の財源がギャンブルでありそれをあてにするという市の姿勢そのものにも問題があります」「市民の

市議会議員団の日々の活動をホームページやツイッター、インスタグラムでお伝えしています。
パソコン・スマホ等で「日本共産党和歌山市議員団」と検索して、ご覧ください。

命と健康、暮らしを守るといふ地方自治体の本旨にたつて、今一度考えること」を強く求めました。

（※反対討論全文は裏面掲載）
本会議での採決でも、賛成多数で可決され、IR誘致計画に同意することとなりました。



賛成(起立)多数で可決

裏面に続く...

2022年3月臨時議会 反対討論（全文）



森下さち子議員が反対討論

日本共産党市会議員団を代表して、提出された議案第1号「和歌山県特定複合観光施設区域整備計画に係る同意について」に反対の立場から討論を行います。

特定複合観光施設いわゆるIRはこれまで日本にはなかったものであり、かつ刑法で禁じられていたカジノ賭博行為を含むものという点で、和歌山市だけでなく全国で多くの不安、疑問があるのは当然です。根強い反対の声は減るところかむしろ広がっており、横浜市のように誘致から撤回へと進んだところがあることから明らかです。

そもそもIRの収益の大きな部分をカジノ収益に依存し、その大部分を日本人から得るという計画になっていることをはじめ、ギャンブル依存症対策の一環として徴収される1回6000円の入場料を当初50億円と見込んでいたものをここにきて4割増しの70億円にしたこと、650万人という来訪者予測の妥当性など納得できる説明がされたとは到底言える状況ではありません。

市長は丁寧な説明をすと言いながら市独自

の説明会を行っていない上に、市民に求めたパブリックコメントや説明会、公聴会の開催結果、内容も公表されたばかりです。区域整備計画の策定の遅れによって、説明会、公聴会、パブリックコメントの計画がずれ込んだ責任は事業者と県にあります。4月28日という国への申請に間に合わせる事が最優先されていると言わざるを得ません。

市長は市民の疑問に答える義務があり、かつ県に対してこのような拙速な進め方については疑義を申し入れるのが務めではないでしょうか。さらに「やることはすべてやった」「和歌山市の人口衰退などに歯止めをかけるにはIRはまたとないチャンス」と市長は言いましたが、そのIRの収益とて不確定要素が多く、このような言動はあまりにも無責任です。

入場料や納付金の財源がギャンブルでありそれをあてにするという市の姿勢そのものにも問題があります。そもそも社会保障などの義務的経費については、国からの交付金と市の一般財源によって安定的に計上されるべきものです。人口衰退や経済の低迷に悩む自治体は和歌山市だけではありません。今市民が必要としていることはどういうことか、市民の命と健康、暮らしを守るといふ地方自治体の本旨にたって、今一度考えることを強く求めます。

以上を申し述べ、反対討論といたします。



3月臨時市議会中、市役所前で「カジノあかん」の宣伝行動を行う市民の皆さん